

外国語における「主体的・対話的で深い学び」

福島県教育センター

# 主体的・対話的で深い学び

外国語における「主体的な学び」とは

(新学習指導要領より)

学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自分の学びや変容を自覚できること

① コミュニケーションを通して社会・世界との関わりを学ぶこと  
または

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を理解して解決の見通しをもつこと

かつ

② コミュニケーションを振り返り、次の学習につなげること

# 主体的・対話的で深い学び

外国語における「対話的な学び」とは

(新学習指導要領より)

対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりすること

① 生徒どうしのコミュニケーション

または

② 教師などの大人とのコミュニケーション

または

③ 優れた思想や考えを発信するテキストとの対話

# 主体的・対話的で深い学び

外国語における「深い学び」とは

(新学習指導要領より)

「見方・考え方」を働かせることを通じて質の高い深い学びにつなげる

① 社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすること

かつ

目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること

# 外国語における主体的・対話的で深い学び

大前提は「コミュニケーションを通して」学ぶこと

内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

言語学習の例

「社会との関わりを学び」ながら「目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもち」「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

内容学習における  
主体的・対話的で深い学び

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

「社会や世界との関わりを学ぶ」→生徒個人との関わりを感じさせる。

生徒個人に結び付く発問を与え、自分のこととして考えさせる。

例 自分だったらどうする？

自分にできることは何か？

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「**情報を整理しながら考え考えを形成する**」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

「**情報を整理しながら考えを形成する**」 → **意思決定をさせて意見を持たせる。それを言語化させる。**

自分はどうすることがよいのか、どのような行動を選択するのかについて考えさせる。日常生活で考える機会が少ないことほど考えさせる価値がある。

頭の中で漠然と思い描いているものを自分の言葉で表出させる。

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「**解決の見通しを立てる**」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

ここまでが**解決の見通しを立てる**ことになっている。社会や世界の問題を自分との関わりで考える。

例 ○○という問題に対してこのように考えて行動すれば、自分なりにその問題に対処できるだろう。

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「**教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る**」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

「**教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る**」→ 実際に話すことや書くことを通して、考えを交わらせる。

他の意見と自分の意見を交わらせることで、新しい気づきを得たり、他の考えと自分の考えを比較したりしながらさらに吟味させる。

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「**考えを再構築し**」最後に「学習を振り返る」

「**考えを再構築する**」→ **もう一度自分の考えを評価させる**。その結果、**修正や変更したり、自信を持たせたりする**。

自分の考えを修正または変更した → 考えが広がった

考えが深まった

自分の考えを変更せずに自信が持てた → 考えが深まった

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「**学習を振り返る**」

「**学習を振り返る**」→評価の視点を教師が与え「自己評価」をさせる。

例 何についてどのような考えをもつことができましたか？

例 コミュニケーションの前後で自分の考えにどのような変化がありましたか。

例 表現したいことを英語で伝え合うことができましたか。表現できないことはありましたか。それはどのようなことですか。

# 内容学習の例

「社会や世界との関わりを学ぶ」ことで「情報を整理しながら考え考えを形成する」ことで「解決の見通しを立てる」。そして「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「**学習を振り返る**」

振り返りの目的は、できるたこと、できるようになったこと、わかったこと、わかるようになったことを言語化させ、「**できた/できるようになった**」**手ごたえや実感を持たせ**たり、自分の学びを自覚させたりこと。このことを継続することで学習意欲が向上したり、学習や教科に対する肯定的な態度を育てたりする。また、できなかったこと、わからなかった（できなかった）ことを明らかにさせることにより、次の学習の見通しを持たせる。

言語学習における  
主体的・対話的で深い学び

# 言語学習の例

「社会との関わりを学び」ながら「目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもち」「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

「社会や世界との関わりを学ぶ」→生徒個人との関わりを感じさせる。

社会や生活で起こりうる場面を感じさせる。

例 新しいALTにインタビューをする

外国人観光客に地元のよさを紹介する

# 言語学習の例

「社会との関わりを学び」ながら「**目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもち**」「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「**考えを再構築し**」最後に「**学習を振り返る**」

「**目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもつ**」

**目的**→コミュニケーションを図ることで達成する目的は何か

**場面**→話し手や聞き手を含む場面は何か

**状況**→前後の出来事やコミュニケーションを図る相手はどうか

目的や場面、状況を理解して初めて表現する内容や使用する英語表現が決定され、コミュニケーションの**目的達成のための見通しが立つ**。

# 言語学習の例

「社会との関わりを学び」ながら「**目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもち**」「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「**考えを再構築し**」最後に「**学習を振り返る**」

目的や場面、状況等が設定された言語活動のメリット

- 目的達成のために、「**何を伝えるのか、どのような英語を使うのか**」を生徒が決定する。
- コミュニケーションの中で**既知の知識や技能を活用させる**ことができる。

# 言語学習の例

「社会との関わりを学び」ながら「目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもち」「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

同じコミュニケーションを繰り返し行わせ、何度も再チャレンジさせる。

- 1回目 まず、自分が考えた表現を試みる。→モデル/フィードバックを与える。
- 2回目 1回目の相手やモデル、フィードバックから得た内容や表現を生かして再チャレンジ（再構築）。→モデル/フィードバックを与える。
- 3回目 2回目の相手やモデルから得た内容や表現を生かして再チャレンジ（再構築）する。

# 言語学習の例

「社会との関わりを学び」ながら「目的や場面、状況等を理解して解決の見通しをもち」「教師とまたは生徒どうしでコミュニケーションを図る」ことを通して「考えを再構築し」最後に「学習を振り返る」

言語活動を繰り返し行わせるメリット

- まず自分の力だけでトライさせることで、できることとできないことに気づかせることができる。
- 毎回モデルに触れさせたりフィードバックを与えることで、できなかったことの変更や修正をさせ、再チャレンジさせることができる。
- 繰り返すごとに正確さと流暢さが向上する。